

日本分析化学会第71年会開催報告

1 はじめに

日本分析化学会第71年会は、2022年9月14日(水)～16日(金)の三日間、岡山大学津島キャンパスにおいて開催された。三日間とも初秋とは思えないほどの酷暑に見舞われ、受付関係者は暑さに疲弊していたが、雨が降らなかったことは幸いであった。千葉で開催された第68年会から3年ぶりの現地開催の年会であり、どれほどの講演申込、参加登録があるのか、大きな不安を抱

表1 第71年会の分類別講演数の一覧

分類	一般	一般	若手
	口頭	ポスター	ポスター
01. 原子スペクトル分析	17(1)	5	1
02. 分子スペクトル分析	12	8	10
03. レーザー分光分析	10	3	1
04. X線分析・電子分光分析・量子 ビーム分析	11	4	4
05. 放射線計測による分析・NMR・ 熱分析	3	2	4
06. 電気化学分析	20	3	11
07. センサー、センシングシステム	9	5(1)	16
08. 質量分析	5	4	8
09. ナノ・マイクロ分析	10(1)	3	5
10. フローインジェクション分析	10	1	6
11. 液体クロマトグラフィー	19(2)	7	9
12. ガスクロマトグラフィー	1	4	0
13. 電気泳動分析	5	1	5
14. 溶媒抽出法、固相抽出法、イオン 交換系	3	8	13
15. 分離・分析試薬の設計	7	4	13
16. 分析化学反応基礎論	8	0	5
17. データ処理理論	0	0	1
18. 標準物質・サンプリング、前処 理	1	2	0
19. 界面分析	11	1	4
20. 微粒子分析および微粒子利用分 析	12	1	6
21. 宇宙・地球に関する分析化学	9	2	4
22. 環境関連分析	21	6	19
23. 無機・金属材料分析	5	5	3
24. 電池・エネルギー材料	1	1	2
25. 有機・高分子材料分析	3	1	2
26. 食品・農作物・ヘルスケア等分 析	5	8	3
27. バイオ分析	38	5	19
28. バイオイメーキング	6	0	3
29. 医薬分析・臨床分析	4	2	2
30. その他	2	2	2
計	268	98	181

カッコ内はテクノレビュー(内数)

えながらの準備となった。また、年会実行委員会が主導的に年会の準備・運営を行うことになってから初めての現地開催の年会であり、手探り状態での準備であった。幸い、5月に開催された第82回分析化学討論会が現地開催の口火を切ってくれたため、会場が利用できる限り現地で開催することを心に決めていた。この点において、第82回分析化学討論会実行委員長長の山本博之先生に心から感謝申し上げる次第である。また、実行委員会主体での開催に関して、関東支部の実行委員会委員の方々と大谷肇副会長から多くのご助言をいただけたことも心強かった。多くの方々に無償でお助けいただいた結果、成功裏に年会を終えることができた。この紙面をお借りし、ご協力いただいた皆様に深く感謝する次第である。

本年会では、一般講演(口頭、ポスター)、若手ポスター、テクノレビュー講演(口頭、ポスター)、研究懇談会講演、および受賞講演が行われた。その他の企画として、産業界シンポジウム、産官学交流カフェ、女性研究者ネットワーク、生涯分析談話会を開催した。また、昨年同様、分析イノベーション交流会主催で本年会共催の「ものづくり技術交流会2022 in 中国四国」を、年会最終日の16日に開催した。

コロナが終息しない状況が続く中、対面かどうかの問い合わせが数件あったが、受賞講演などを含めた講演総数は595件、参加登録者数は1026名となり、予想を上回る講演数と参加登録者数であった。表1に、本年会の分類別講演数の一覧を示した。

2 講演

口頭発表(一般講演264件、テクノレビュー講演4件、研究懇談会講演22件、学会賞を除く各賞の受賞講演12件)は、一般教育棟においてA~Kの11会場で行った。各会場では密を避けるために隣同士での着席ができないように座席を制限した。そのため、入場できない人のために各口頭発表会場でライブ配信した。

ライブ配信は、各口頭発表会場においてPC11台とWebカメラを接続して行った。一時的に配信されていない状況もあったが、すべての会場でおおむね配信することができた。各会場には、2~3名の実行委員と2名の学生アルバイトを配置した。実行委員と学生の協力により、すべての会場において大きな問題もなく、滞りなく口頭発表が行われた。



口頭発表会場の様子

ポスター講演（若手ポスター 181 件，一般ポスター 97 件，テクノレビューポスター 1 件）は大学会館の 1 階ホールと 2 階大集会室の 2 会場で 1 日目の午前と午後，2 日目，3 日目午前の計 4 回に分けて行った。十分にスペースを取ってポスターと展示ブースを設置するように配慮したつもりであったが，予想を上回る聴衆の参加にかなり密集した状態を招いてしまったことは反省点のひとつである。一方で，体育館などの大きな会場を準備した場合，暑さ対策が困難であるため，結果的にはエアコンのある会場で換気に注意して実施する今回の方法が良かったのではないかと考えている。若手ポスターの中から 20 件の講演に若手ポスター賞が授与された。



ポスター発表会場の様子

3 授賞式・受賞講演

学会賞を除く各賞の受賞講演は，関連する分野の講演会場で実施した。各賞の受賞者（連名の場合は講演者）は以下の通りである。技術功績賞の喜多純一氏，中川公一氏，奨励賞の有馬彰秀氏，井上賢一氏，砂山博文氏，吉田将己氏，先端分析技術賞の渋谷亨司氏，八幡悟史氏，女性 Analyst 賞の森内隆代氏，リムリーワ氏，そして分析化学論文賞の河相優子氏，Daniel CITERRIO 氏

の 12 名の方々である。

一方，年会 2 日目の 9 月 15 日午後，岡山大学創立五十周年記念館金光ホールにおいて，各賞の授賞式，並びに学会賞受賞講演を行った。授賞式後，金田隆，黒田直敬氏，久本秀明氏（講演順に記載）による学会賞受賞講演を実施し，受賞講演への参加者は 140 名超で，ライブ配信での再生回数は 150 超であった。準備が遅れたため，授賞式のライブ配信が間に合わなかったことをお詫び申し上げる。一方で，学会賞受賞講演のライブ配信の再生回数は他の講演のライブ配信よりも極めて多く，参加者にとっては便利であったようだ。

4 付設展示会，ランチョンセミナー

ポスター会場と同じ会場で付設展示会（16 社＋学会誌展示 2）を実施した。ポスター会場は三日間とも盛況であったため，展示に訪れる参加者も多く，大変好評であった。ランチョンセミナーは 1 日目 3 件，2 日目，3 日目は 2 件ずつ開催した。朝 8 時 30 分から開始したチケット配布は，全日とも 30 分以内でなくなるほどの人気であった。Web サイトではバナー広告（8 社）を掲載した。期間中の総アクセス数（バナーのクリック数）は 663 件であった。

5 若手企画

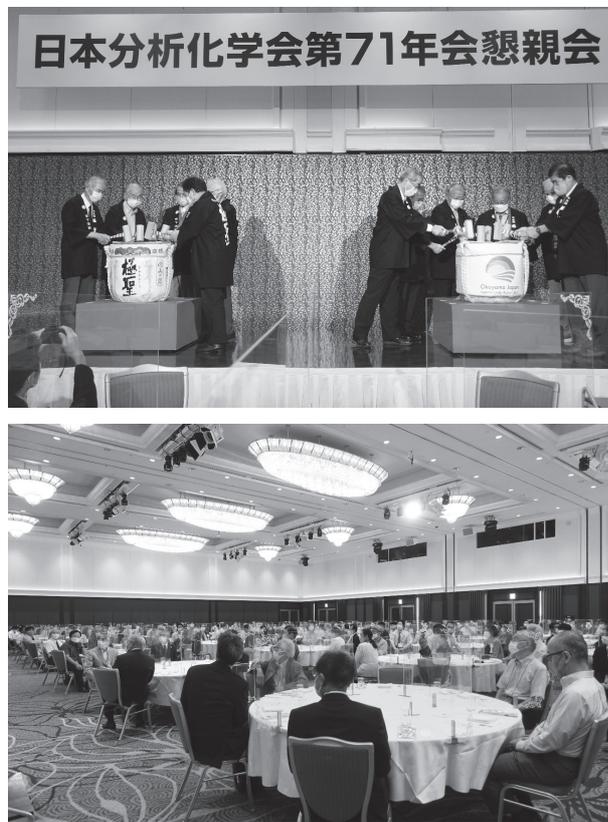
今回も若手企画として，若手ポスター発表に対する審査と表彰を行った。この若手ポスターには，おおむね 30 才以下の学生会員と若手研究者による 181 件の発表が申し込まれた。初日は昼休みを挟んだ前後のセッションにて，また 2 日目には昼休み前のセッションにて行われた。若手の会を中心とした一般会員の審査員による厳正な審査の結果，全 20 名を若手ポスター賞に選出し，年会終了後に実行委員長名で賞状を郵送した。若手ポスター講演が非常に多かったため，審査員の方々には大変な苦勞があったものと推測される。若手ポスター賞の運営にご尽力いただいた若手研究者の方々にお礼申し上げたい。受賞者は以下の通りである（敬称略）：田中悠大（大阪公立大），竹歳初美（京工繊大），藤田航（山口大），鈴木洋平（京都大），西海豪祐（大阪公立大），中川実咲（慶応大），中田武志（京工繊大），福智魁（東工大），藤村泰地（九大），保住真成（埼玉大），川口真依（慶応大），吉井智夏（慶応大），木村梨子（福島大），横田優貴（富山大），小濱望（富山大），梅野智大（昭和薬科大），濱野裕希（宇都宮大），大塚靖正（東北大），福住奈那実（愛媛大），鈴木杏奈（慶応大）。

6 懇親会

2 日目の 9 月 15 日に行われた授賞式後，岡山駅前のホテルグランピア岡山にて，懇親会を開催した。第 82 回分析化学討論会に倣って，着席形式で各テーブルにア

クリル板を設置することで懇親会開催の決定に踏み切った。懇親会参加者数は256名と多くの方にご参加いただいた。懇親会では、実行委員長、早下隆士会長の挨拶に続き、岡山大学榎野博史学長、日本分析機器工業会中本晃会長にご挨拶いただいた。その後、中本会長、榎野学長、早下会長、並びに8名の名誉会員による鏡割り

を行った。会の途中ではアトラクションとして、国の重要無形民俗文化財である岡山の備中神楽、大蛇退治の演舞が披露された。その後、2023年開催予定の第83回分析化学討論会実行委員長である遠田浩司氏（富山大）からスピーチがあった。また、2023年開催予定の第72年会の実行委員長である戸田敬氏（熊北大）からスピーチをいただいた。最後に、中国四国支部長の中山雅晴氏（山口大）から締め挨拶があり、盛会のうちに幕を閉じた。着席形式ではあったが、参加者はいろいろな方との再会を楽しんでいる様子が窺えた。



鏡割りと着席形式での懇親会の様子

7 おわりに

本年会はいろいろな意味で「初めて」が多かった年会となりましたが、多くの方から喜びの声をいただき、現地開催してよかったと感じております。有料参加者数は1011名と、2年前に千葉大で対面で行われた第68年会の1119名の90%程度であったが、当初の予想以上に多くの方々のご参加を頂きました。中国四国地区の開催において、関東と同程度の参加登録をいただけたことは、多くの参加者が現地開催を望んでいることの表れだと思います。お陰様で、活発な議論が行われ、参加者の皆様にとって有意義な年会になったものと信じております。

末筆となりましたが、本年会の準備・運営にご協力いただいた実行委員の皆様、展示、広告等でご協力いただいた企業の皆様、そして何より年会にご参加いただいた会員の皆様に、あらためて深く感謝の意を表したいと思います。

〔岡山大学 金田 隆〕

会員の拡充に御協力を !!

本会では、個人（正会員：会費年額9,000円＋入会金1,000円、学生会員：年額4,500円）及び団体会員（維持会員：年額1口79,800円、特別会員：年額30,000円、公益会員：年額28,800円）の拡充を行っております。分析化学を業務としている会社や分析化学関係の仕事に従事している人などがお知り合いにおられましたら、ぜひ本会への入会を御勧誘くださるようお願い致します。

入会の手続きなどの詳細につきまして、本会ホームページ（<https://www.jsac.jp>）の入会案内をご覧ください。

◇〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号（公社）日本分析化学会会員係

〔電話：03-3490-3351、FAX：03-3490-3572、E-mail：memb@jsac.or.jp〕